

令和5年度 秋田県生涯学習・社会教育研究大会 報告

日 時：令和5年11月10日（金）10：20～15：15 会 場：秋田県生涯学習センター
参加者：生涯学習・社会教育主管課職員、公民館・市民センター等の社会教育関係施設職員、社会教育委員、
公民館運営審議会委員、生涯学習奨励員、家庭教育支援関係者、学校教育関係者、社会教育士、
社会教育主事有資格者等 90名

テーマ 人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環を目指して

～ゆるやかなネットワークによる社会教育の充実～

【講演】「北広島市の社会教育行政と地域づくりマネジメント」

北海道北広島市教育委員会 教育部 部長 吉田智樹 氏

吉田氏は冒頭、北広島市の概要を話され、続いて社会教育・生涯学習を推進することがソーシャルキャピタルの向上（＝コミュニティの活性化）やウェルビーイングの達成（＝自己実現）に繋がり、それらを通じた人づくりこそがまちづくりに繋がると、市の社会教育推進の基本的な考え方を説明されました。その考えに基づいて導入を進めた、『市民が自分たちで考え、自分たちで展開できるしくみづくりとしての「生涯学習振興会」』について言及され、その取組を通じて、地域の中で「地域（自己）肯定感」と「地域（自己）有用感」の高まりが見られ、「地域づくりの要」としての組織に発展したと話されました。また、その中で、社会教育委員が講師として講座を実施する「シャベルきたひろしま」についても言及があり、参加者に大きな示唆を与えました。



最後に、「ともに働く関係」（足し算）から「ともに創り上げていく関係」（掛け算）に進んでいくことを「協働」とした上で、「協働」を基本にしたまちづくりを行い、市民のまちに対する愛着心の醸成や地域の資源・魅力の再発見・再認識を通じて「地域への誇りと愛着」の向上を図ることの重要性を説きました。

【実践研究】① 地域課題解決に向けた「熟議」の活用 ～秋田市白熊町内会・白熊未来会議との連携・協働～

【発表】② 学校教育と社会教育のつながりづくり ～「障害者の生涯学習」の取組～

①は、秋田市河辺の白熊地区の町内会長から依頼を受け、地域の課題解決を目指す「白熊未来会議」の話合いに、県生涯学習センターが提案する「熟議」という参加型学習の手法を採り入れた取組について、県生涯学習センター 社会教育主事の **佐藤 隆道** が発表しました。自由な意見交流を続けていく中で、当初1回の予定が3回まで開催され、「今の良い白熊を次代につなぐ」という目的意識を共有した上で「継続的にみんなのできるイベントの創出」という方向性が示され、自由闊達な議論の必要性が明確になりました。

②では、障害者の生涯学習について、県生涯学習センター 社会教育主事の **佐々木 克巳** が発表しました。学校教育と社会教育との間につながりを作る方法として、1) 学校教育が社会教育へアプローチする方法と、2) 生涯学習センターが学校教育と社会教育を橋渡しする方法の2つを、前者の例として「秋田きらり支援学校青年学級」の取組を、後者の例として大曲支援学校せんぼく校の青年学級「せんぼく桜スクール」を紹介しました。

そして、このような取組を行う上で一番大切なことは、「目標共有」であること。その上でまわりをよく見て、今あるものを利用し、コラボすることをいとわず、まず一歩踏み出すことであると訴えました。

